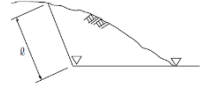
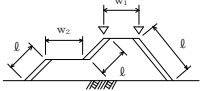
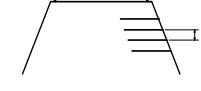

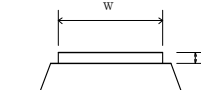
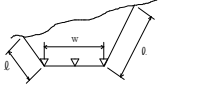
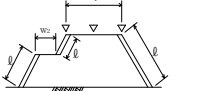



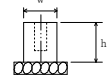
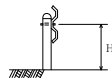
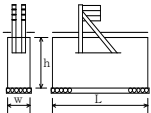
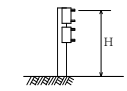
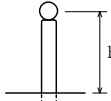






単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
1 共通編	2 土工	3 河川・砂防土工	2		掘削工	基準高▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は掘削部の両端で測定。			
						法長ℓ	ℓ < 5 m				-200
							ℓ ≥ 5 m				法長-4%
1 共通編	2 土工	3 河川・砂防土工	3		盛土工	基準高▽	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は各法肩で測定。			
						法長ℓ	ℓ < 5 m				-100
							ℓ ≥ 5 m				法長-2%
幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-100										
1 共通編	2 土工	3 河川・砂防土工	4		盛土補強工 (補強土(テールアルメ)壁工法) (多数アンカー式補強土工工法) (ジオテキスタイルを用いた補強土工工法)	基準高▽	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						厚 さ t	-50				
						控 え 長 さ	設計値以上				
1 共通編	2 土工	3 河川・砂防土工	5		法面整形工 (盛土部)	厚 さ t	※-30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。			
1 共通編	2 土工	3 河川・砂防土工	6		堤防天端工	厚さ t	t < 15cm	-25	幅は、施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 厚さは、施工延長200mにつき1ヶ所、200m以下は2ヶ所、中央で測定。		
							t ≥ 15cm	-50			
						幅 w	-100				
1 共通編	2 土工	4 道路土工	2		掘削工	基準高▽	±50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。			
						法長ℓ	ℓ < 5 m				-200
							ℓ ≥ 5 m				法長-4%
幅 w	-100										
1 共通編	2 土工	4 道路土工	3	4	路体盛土工 路床盛土工	基準高▽	±50	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。			
						法長ℓ	ℓ < 5 m				-100
							ℓ ≥ 5 m				法長-2%
幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-100										
1 共通編	2 土工	4 道路土工	5		法面整形工 (盛土部)	厚 さ t	※-30	施工延長40mにつき1ヶ所、延長40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、法の中央で測定。 ※土羽打ちのある場合に適用。			

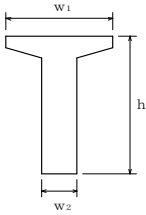
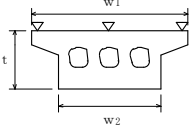
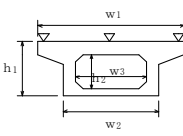
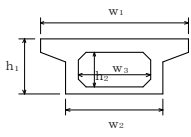
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
1 共通編	3 無筋、鉄筋コンクリート	6 鉄筋工	4		組立て	平均間隔 d	±φ	$d = \frac{D}{n-1}$ D：n本間の延長 n：10本程度とする φ：鉄筋径			
						かぶり t	±φかつ 最小かぶり 以上				工事の規模に応じて、1リフト、1ロット当たりに対して各面で一箇所以上測定する。最小かぶりは、コンクリート標準示方書（設計編：標準 7編 2章 2.1）参照。ただし、道路橋示方書の適用を受ける橋については、道路橋示方書（Ⅲコンクリート橋編 6.6）による。  注1) 重要構造物 かつ主鉄筋について適用する。  注2) 橋梁コンクリート床版桁（PC橋含む）の鉄筋については、第3編3-2-18-2床版工を適用する。  注3) 新設のコンクリート構造物（橋梁上・下部工および重要構造物である内空断面積25㎡以上のボックスカルバート（工場製作のプレキャスト製品は全ての工種において対象外））の鉄筋の配筋状況及びかぶりについては、「非破壊試験によるコンクリート構造物中の配筋状態及びかぶり測定要領（案）」も併せて適用する。
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	4		矢板工（指定仮設・任意仮設は除く）  （鋼矢板） （軽量鋼矢板） （コンクリート矢板） （広幅鋼矢板） （可とう鋼矢板）	基準高▽	±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。  変位は、施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1ヶ所、延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						根入長	設計値以上				
						変位 ℓ	100				
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	5		緑石工  （緑石・アスカーブ）	延長 L	-200	1ヶ所／1施工箇所			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	6		小型標識工	設置高さ H	設計値以上	1ヶ所／1基			
						基礎	幅 w (D)	-30			基礎1基毎
							高さ h	-30			
3 土木工事共通編	2 一般施工	3 共通の工種	7		防止柵工  （立入防止柵） （転落（横断）防止柵） （車止めポスト）	基礎	幅 w	-30	単独基礎10基につき1基、10基以下のものは2基測定。測定箇所は1基につき1ヶ所測定。		
							高さ h	-30			
						パイプ取付高 H	+30 -20	1ヶ所／1施工箇所			

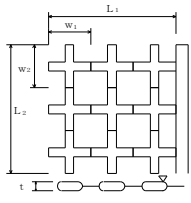
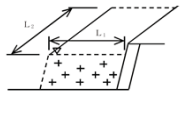
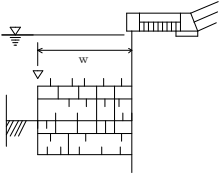
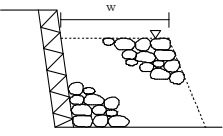
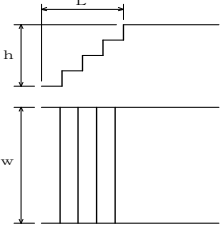

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	8	1	路側防護柵工 (ガードレール)	基礎	幅 w	-30	1ヶ所/施工延長40m 40m以下のものは、2ヶ所/1施工箇 所。		
							高 さ h	-30			
						ビーム取付高 H	+30 -20	1ヶ所/1施工箇所			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	8	2	路側防護柵工 (ガードケーブル)	基礎	幅 w	-30	1ヶ所/1基礎毎		
							高 さ h	-30			
							延 長 L	-100			
						ケーブル取付高 H	+30 -20	1ヶ所/1施工箇所			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	9		区画線工	厚 さ t (溶融式のみ)	設計値以上	各種種毎に、1ヶ所テストピースにより 測定。			
						幅 w	設計値以上				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	10		道路付属物工 (視線誘導標) (距離標)	高 さ h	±30	1ヶ所/10本 10本以下の場合は、2ヶ所測定。			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	11		コンクリート面塗装工	塗料使用量	鋼道路橋防食便覧 II-82「表- II.5.5各塗料の標 準使用量と標準膜 厚」の標準使用量 以上。	塗装系ごとの塗装面積を算出・照査し て、各塗料の必要量を求め、塗付作業 の開始前に搬入量(充缶数)と、塗付 作業終了時に使用量(空缶数)を確認 し、各々必要量以上であることを確認 する。 1ロットの大きさは500㎡とする。			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	12	1	プレテンション桁製作 工(購入工) (けた橋)	桁長 L (m)	±L/1000	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場 合は、製造工場の発行するJISに基づ く試験成績表に替えることができる。	断面図  側面図  平面図 		
						断面の外形寸法	±5				
						橋 桁 の そ り δ <sub>1</sub>	±8				
						横方向の曲がり δ <sub>2</sub>	±10				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	12	2	プレテンション桁製作 工(購入工) (スラブ桁)	桁長 L (m)	±10… L ≤ 10m ±L/1000… L > 10m	桁全数について測定。 橋桁のそりは中央の値とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場 合は、製造工場の発行するJISに基づ く試験成績表に替えることができる。	断面図  側面図  平面図 		
						断面の外形寸法	±5				
						橋 桁 の そ り δ <sub>1</sub>	±8				
						横方向の曲がり δ <sub>2</sub>	±10				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 の工 種	13	1	ポストテンション桁製 作工	幅 (上) $w_1$	+10 -5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッ シング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3ヶ所とする。 なお、JISマーク表示品を使用する場 合は、製造工場の発行するJISに基づ く試験成績表に替えることができる。 $\ell$ ：支間長 (m)		
						幅 (下) $w_2$	± 5			
						高 さ $h$	+10 -5			
						桁 長 $\ell$ 支間長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内			
						横方向最大タワミ	0.8 $\ell$			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 の工 種	13	2	プレキャストセグメン ト桁製作工 (購入工)	桁 長 $\ell$	—	桁全数について測定。桁断面寸法測定 箇所は、図面の寸法表示箇所で測定。		
						断面の外形寸法 (mm)	—			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 の工 種	14		プレキャストセグメン ト主桁組立工	桁 長 $\ell$ 支間長	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッ シング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3ヶ所とする		
						横方向最大タワミ	0.8 $\ell$			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 の工 種	15		P Cホロースラブ製作 工	基 準 高 $\nabla$	±20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり2ヶ所 (支 点付近) で1箇所当たり両端と中央部の 3点、幅及び厚さは1 径間当たり両端 と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、 第3編2-18-2床版工に準ずる。 $\ell$ ：桁長 (m)		
						幅 $w_1, w_2$	-5 ~ +30			
						厚 さ $t$	-10 ~ +20			
						桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 の工 種	16	1	P C箱桁製作工	基 準 高 $\nabla$	±20	桁全数について測定。 基準高は、1 径間当たり2ヶ所 (支 点付近) で1箇所当たり両端と中央部の 3点、幅及び高さは1 径間当たり両端 と中央部の3ヶ所。 ※鉄筋の出来形管理基準については、 第3編2-18-2床版工に準ずる。 $\ell$ ：桁長 (m)		
						幅 (上) $w_1$	-5 ~ +30			
						幅 (下) $w_2$	-5 ~ +30			
						内 空 幅 $w_3$	± 5			
						高 さ $h_1$	+10 -5			
						内空高さ $h_2$	+10 -5			
						桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 の工 種	16	2	P C押し箱桁製作工	幅 (上) $w_1$	-5 ~ +30	桁全数について測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央 部の3ヶ所とする。 ※鉄筋の出来形管理基準については、 第3編2-18-2床版工に準ずる。 $\ell$ ：桁長 (m)		
						幅 (下) $w_2$	-5 ~ +30			
						内 空 幅 $w_3$	± 5			
						高 さ $h_1$	+10 -5			
						内空高さ $h_2$	+10 -5			
						桁 長 $\ell$	$\ell < 15 \dots \pm 10$ $\ell \geq 15 \dots$ $\pm (\ell - 5)$ かつ-30mm以内			

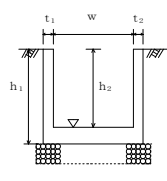
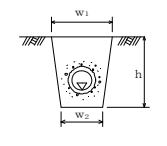
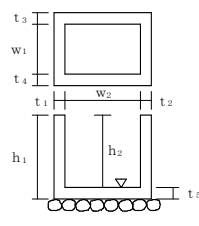
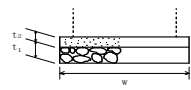
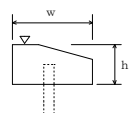
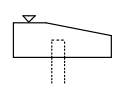
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	17		根固めブロック工	層積	基準高▽	±100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 幅、厚さは40個につき1ヶ所測定。		
							厚 さ t	-20			
							幅 w1, w2	-20			
							延長 L1, L2	-200			
						乱積	基準高▽	± t / 2	1 施工箇所毎		
							延長 L1, L2	- t / 2			
									tは根固めブロックの高さ		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	18		沈床工	基 準 高 ▽	±150	1 組毎			
						幅 w	±300				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	19		捨石工	基 準 高 ▽	-100	1 回 / 1 施工箇所			
						幅 w	-100				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	22		階段工	幅 w	-30	1 回 / 1 施工箇所			
						高 さ h	-30				
						長 さ L	-30				
						段 数	± 0 段				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 種	24	1	伸縮装置工 (ゴムジョイント)	据 付 け 高 さ	±3	車道端部及び中央部付近の3点を測定。 表面の凹凸は長手方向（橋軸直角方向）に3mの直線定規で測って凹凸が3mm以下			
						表 面 の 凹 凸	3				
						仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0~-2				

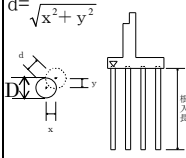
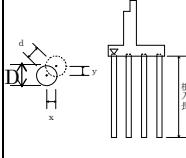
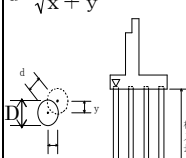
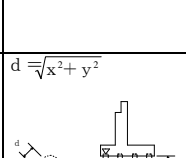
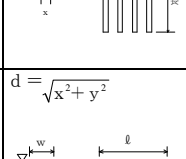
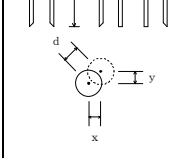
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 程	24	2	伸縮装置工 (鋼製フィンガージョ イント)	高さ	据付け高さ	±3	高さについては車道端部、中央部にお いて車線方向に各3点計9点。 表面の凹凸は長手方向(橋軸直角方 向)に3mの直線定規で測って凹凸が 3mm以下 歯咬み合い部は車道端部、中央部の計 3点。		
							車線方向各点 誤差の相対差	3			
						表面の凹凸	3				
						歯咬み合い部の 高低差	2				
						歯咬み合い部の 縦方向間隔W1	±2				
						歯咬み合い部の 横方向間隔W2	±5				
仕 上 げ 高 さ	舗装面に対し 0~-2										
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 程	26	1	多自然型護岸工 (巨石張り、巨石積 み)	基 準 高 ▽	±500	施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、延長40m(又 は50m)以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。			
						法 長 ℓ	-200				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 程	26	2	多自然型護岸工 (かごマット)	法 長 ℓ	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、延長40m(又 は50m)以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。			
						厚 さ t	-0.2t				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 程	27	1	羽口工 (じゃかご)	法長 ℓ	ℓ < 3m	-50	施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、延長40m(又 は50m)以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。		
							ℓ ≥ 3m	-100			
						厚 さ t	-50				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 程	27	2	羽口工 (ふとんかご、かご 枠)	高 さ h	-100	施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、延長40m(又 は50m)以下のものは1施工箇所につ き2ヶ所。			
						延 長 L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 プレ キャスト カルバ ート工	28		プレキャストカルバ ート工 (プレキャストボク ス工) (プレキャストパイ プ工)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所。 ※印は、現場打部分のある場合。			
						※幅 w	-50				
						※高 さ h	-30				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 程	29	1	側溝工 (プレキャストU型側 溝) (I型側溝工) (自由勾配側溝) (管渠)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合 は50m)につき1ヶ所、施工延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所 につき2ヶ所。			
						延 長 L	-200				

単位：mm

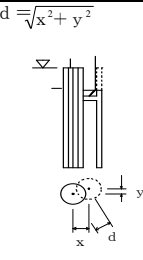
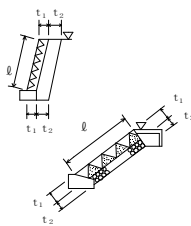
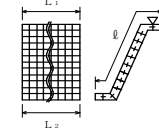
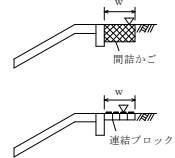
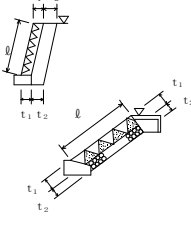
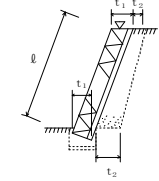
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 程	29	2	側溝工 (場所打水路工)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、施工延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		
						厚 さ t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub>	-20			
						幅 w	-30			
						高 さ h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub>	-30			
						延 長 L	-200			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 程	29	3	側溝工 (暗渠工)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		
						幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-50			
						深 さ h	-30			
						延 長 L	-200			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 程	30		集水樹工	基 準 高 ▽	±30	1ヶ所毎 ※は、現場打部分のある場合		
						※厚さ t <sub>1</sub> ~t <sub>5</sub>	-20			
						※幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30			
						※高さ h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub>	-30			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	3 共通 的工 程	31		現場塗装工	塗 膜 厚	a. ロットの塗膜厚平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	塗装終了時に測定。 1 ロットの大きさは500㎡とする。 1 ロット当たりの測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1 ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	4 基礎 工	1		一般事項 (切込砂利) (砕石基礎工) (割ぐり石基礎工) (均しコンクリート)	幅 w	設計値以上	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		
						厚 さ t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub>	-30			
						延 長 L	各構造物の規格値による			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	4 基礎 工	3	1	基礎工 (護岸) (現場打)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		
						幅 w	-30			
						高 さ h	-30			
						延 長 L	-200			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	4 基礎 工	3	2	基礎工 (護岸) (プレキャスト)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m) につき 1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき 2ヶ所。		
						延 長 L	-200			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4	1	既製杭工 (既製コンクリート杭) (鋼管杭) (H鋼杭)	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	D/4 以内かつ100以内			
						傾 斜	1/100以内			
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	4	2	既製杭工 (鋼管ソイルセメント杭)	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	100以内			
						傾 斜	1/100以内			
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	5		場所打杭工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	100以内			
						傾 斜	1/100以内			
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	6		深礎工	基 準 高 ▽	±50	全数について杭中心で測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						根 入 長	設計値以上			
						偏 心 量 d	150以内			
						傾 斜	1/50以内			
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	7		オープンケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						ケーソンの長さ ℓ	-50			
						ケーソンの幅 w	-50			
						ケーソンの高さ h	-100			
						ケーソンの壁厚 t	-20			
						偏 心 量 d	300以内			
3 土木 工事 共通 編	2 一 般 施 工	4 基 礎 工	8		ニューマチックケーソン基礎工	基 準 高 ▽	±100	壁厚、幅、高さ、長さ、偏心量については各打設ロットごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 	
						ケーソンの長さ ℓ	-50			
						ケーソンの幅 w	-50			
						ケーソンの高さ h	-100			
						ケーソンの壁厚 t	-20			
						偏 心 量 d	300以内			



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	4 基礎 工	9		鋼管矢板基礎工	基 準 高 ▽	±100	基準高は、全数を測定。 偏心量は、1基ごとに測定。	$d = \sqrt{x^2 + y^2}$ 		
						根 入 長	設計値以上				
						偏 心 量 d	300以内				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	5 石・ ブロック 積（張） 工	3	1	コンクリートブロック工 (コンクリートブロック積) (コンクリートブロック張り)	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の2ヶ所を測定。			
						法 長 ℓ	ℓ < 3 m				-50
							ℓ ≥ 3 m				-100
						厚 さ（ブロック積張） t <sub>1</sub>	-50				
						厚 さ（裏込） t <sub>2</sub>	-50				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	5 石・ ブロック 積（張） 工	3	2	コンクリートブロック工 (連節ブロック張り)	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						法 長 ℓ	-100				
						延 長 L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	5 石・ ブロック 積（張） 工	3	3	コンクリートブロック工 (天端保護ブロック)	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						幅 w	-100				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	5 石・ ブロック 積（張） 工	4		緑化ブロック工	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の2ヶ所を測定。			
						法 長 ℓ	ℓ < 3 m				-50
							ℓ ≥ 3 m				-100
						厚 さ（ブロック） t <sub>1</sub>	-50				
						厚 さ（裏込） t <sub>2</sub>	-50				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	5 石・ ブロック 積（張） 工	5		石積（張）工	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。厚さは上端部及び下端部の2ヶ所を測定。			
						法 長 ℓ	ℓ < 3 m				-50
							ℓ ≥ 3 m				-100
						厚 さ（石積・張） t <sub>1</sub>	-50				
						厚 さ（裏込） t <sub>2</sub>	-50				
						延 長 L	-200				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7	1	アスファルト舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—	基準高は延長40m毎に1ヶ所の割合し、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割合で測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m <sup>2</sup> 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000m <sup>2</sup> 以上10,000m <sup>2</sup> 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚 さ	-45	-45	-15	-15			
						幅	-50	-50	—	—			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7	2	アスファルト舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割合とし、厚さは各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m <sup>2</sup> 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000m <sup>2</sup> 以上10,000m <sup>2</sup> 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50	-50	—	—			
						厚 さ	-25	-30	-8	-10			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7	3	アスファルト舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割合とし、厚さは、1,000㎡に1個の割合でコアを採取もしくは掘り起こして測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m <sup>2</sup> 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000m <sup>2</sup> 以上10,000m <sup>2</sup> 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50	-50	—	—			
						厚 さ	-15	-20	-5	-7			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7	4	アスファルト舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割合とし、厚さは、1,000㎡に1個の割合でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m <sup>2</sup> 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000m <sup>2</sup> 以上10,000m <sup>2</sup> 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50	-50	—	—			
						厚 さ	-9	-12	-3	-4			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7	5	アスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割合とし、厚さは、1,000㎡に1個の割合でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m <sup>2</sup> 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000m <sup>2</sup> 以上10,000m <sup>2</sup> 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-25	-25	—	—			
						厚 さ	-7	-9	-2	-3			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	7	6	アスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割合とし、厚さは、1,000㎡に1個の割合でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事とは、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、舗装施工面積が10,000m <sup>2</sup> 以上あるいは使用する基層および表層用混合物の総使用量が、3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合、次のいずれかに該当するものをいう。 ①施工面積で2,000m <sup>2</sup> 以上10,000m <sup>2</sup> 未満 ②使用する基層及び表層用混合物の総使用量が500t以上3,000t未満 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-25	-25	—	—			
						平坦性	—		3mプロファイル (σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				
						厚 さ	-7	-9	-2	-3			

単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3	2	6	8	1	半たわみ性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—	基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	
						厚 さ	-45	-45	-15	-15			
						幅	-50	-50	—	—			
3	2	6	8	2	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。		
						幅	-50	-50	—	—			
3	2	6	8	3	半たわみ性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	
						幅	-50	-50	—	—			
3	2	6	8	4	半たわみ性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	コーア採取について 橋面舗装等でコーア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。  維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-50	-50	—	—			
3	2	6	8	5	半たわみ性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。		
						幅	-25	-25	—	—			
3	2	6	8	6	半たわみ性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。		
						幅	-25	-25	—	—			
						平坦性	—		3m <sup>2</sup> コイルメータ(α)2.4mm以下直読式(足付き) (α)1.75mm以下				
3	2	6	9	1	排水性舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—	—	基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	
						厚 さ	-45	-45	-15	-15			
						幅	-50	-50	—	—			
3	2	6	9	2	排水性舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	コーア採取について 橋面舗装等でコーア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。  維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-50	-50	—	—			
3	2	6	9	3	排水性舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8	-10	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。		
						幅	-50	-50	—	—			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3	2	6	9	4	排水性舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	
						幅	-50	-50	—	—			
						平坦性	—		3mプロファイル(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				
3	2	6	9	5	排水性舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-25	-25	—	—			
						平坦性	—		3mプロファイル(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				
3	2	6	9	6	排水性舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。		
						幅	-25	-25	—	—			
						平坦性	—		3mプロファイル(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				
3	2	6	10	1	透水性舗装工 (路盤工)	基準高▽	±50		—		基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1ヶ所測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。 ※歩道舗装に適用する。		
						厚 さ	t < 15cm	-30	-10				
							t ≥ 15cm	-45	-15				
						幅	-100		—				
3	2	6	10	2	透水性舗装工 (表層工)	厚 さ	-9	-3		幅は、片側延長80m毎に1ヶ所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所コアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。 ※歩道舗装に適用する。			
						幅	-25		—				
						平坦性	—		3mプロファイル(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				
3	2	6	11	1	グーラスファルト舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5	-7	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模以上の工事は、管理図等を描いた上での管理が可能な工事をいい、基層および表層用混合物の総使用量が3,000t以上の場合が該当する。 小規模工事とは、中規模以上の工事より規模は小さいものの、管理結果を施工管理に反映できる規模の工事をいい、同一工種の施工が数日連続する場合が該当する。	
						幅	-50	-50	—	—			
						平坦性	—		3mプロファイル(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				
3	2	6	11	2	グーラスファルト舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3	-4	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。 維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-25	-25	—	—			
						平坦性	—		3mプロファイル(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				
3	2	6	11	3	グーラスファルト舗装工 (表層工)	厚 さ	-7	-9	-2	-3	幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。		
						幅	-25	-25	—	—			
						平坦性	—		3mプロファイル(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X10)				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3	2	6	12	1	コンクリート舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—		基準高は延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線および端部で測定。厚さは各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚 さ	-45		-15				
						幅	-50		—				
3	2	6	12	2	コンクリート舗装工 (粒度調整路盤工)	厚 さ	-25	-30	-8		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	-50		—				
						厚 さ	-25	-30	-8				
3	2	6	12	3	コンクリート舗装工 (セメント (石灰・瀝青) 安定処理工)	厚 さ	-25	-30	-8		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50		—				
						厚 さ	-9	-12	-3				
3	2	6	12	4	コンクリート舗装工 (アスファルト中間層)	厚 さ	-9	-12	-3		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	-25		—				
						厚 さ	—10	-3.5		厚さは各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3ヶ所以上測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割で測定。平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。			
幅	-25		—										
平坦性	—		コンクリートの硬化後 3mプロファイルメータにより機械舗設の場合 (σ)2.4mm以下 人力舗設の場合 (σ)3mm以下										
3	2	6	12	5	コンクリート舗装工 (コンクリート舗装版工)	目地段差	±2				隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。		
						厚 さ	±40	±50	—				
						幅	-45		-15				
3	2	6	12	6	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 下層路盤工	基準高▽	±40	±50	—		基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚 さ	-45		-15				
						幅	-50		—				
3	2	6	12	7	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X10) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50		—				
						厚 さ	-25	-30	-8				

単位：mm

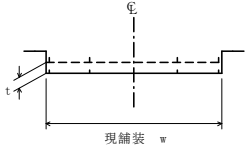
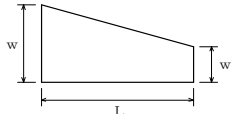
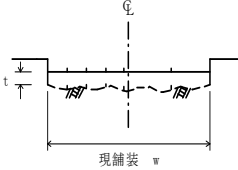
編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X10)				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3	2	6	12	8	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) セメント(石灰・選青)安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取もしくは、掘り起こして測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50		—				
						平坦性	—		転圧コンクリートの硬化後、3mプロファイルメーターにより(σ)2.4mm以下。				
3	2	6	12	9	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工) アスファルト中間層	厚 さ	-9	-12	-3		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。  維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。	
						幅	-25		—				
						平坦性	—		隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。				
3	2	6	12	10	コンクリート舗装工 (転圧コンクリート版工)	厚 さ	-15		-4.5		厚さは、各車線の中心付近で型枠据付後各車線200m毎に水糸又はレベルにより1測線当たり横断方向に3ヶ所以上測定、幅は、延長80m毎に1ヶ所の割で測定、平坦性は各車線毎に版縁から1mの線上、全延長とする。		
						幅	-35		—				
						平坦性	—		隣接する各目地に対して、道路中心線及び端部で測定。				
3	2	6	13	1	薄層カラー舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—		基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚 さ	-45		-15				
						幅	-50		—				
3	2	6	13	2	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。		
						幅	-50		—				
						平坦性	—		—				
3	2	6	13	3	薄層カラー舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰)安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値(X10)について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50		—				
						平坦性	—		—				
3	2	6	13	4	薄層カラー舗装工 (加熱アスファルト安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	-50		—				
						平坦性	—		—				
3	2	6	13	5	薄層カラー舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。		
						幅	-25		—				
						平坦性	—		—				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値				測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )				
							中規模以上	小規模以下	中規模以上	小規模以下			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	1	ブロック舗装工 (下層路盤工)	基準高▽	±40	±50	—		基準高は、延長40m毎に1ヶ所の割とし、道路中心線及び端部で測定。 厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割に測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						厚さ	-45		-15				
						幅	-50		—				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	2	ブロック舗装工 (上層路盤工) 粒度調整路盤工	厚 さ	-25	-30	-8		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、各車線200m毎に1ヶ所を掘り起こして測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。		
						幅	-50		—				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	3	ブロック舗装工 (上層路盤工) セメント(石灰) 安定処理工	厚 さ	-25	-30	-8		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取もしくは掘り起こして測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2,000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2,000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。	
						幅	-50		—				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	4	ブロック舗装工 (加熱アスファルト 安定処理工)	厚 さ	-15	-20	-5		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。	コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。	
						幅	-50		—				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	14	5	ブロック舗装工 (基層工)	厚 さ	-9	-12	-3		幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、厚さは、1,000㎡に1個の割でコアを採取して測定。 ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として道路中心線、両端部の計3点で測定する。		
						幅	-25		—				

出来形管理基準及び規格値

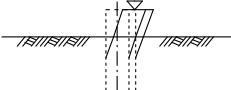
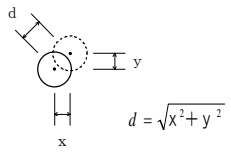
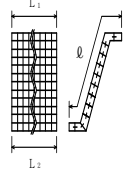
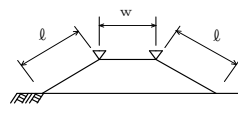
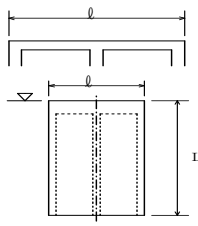
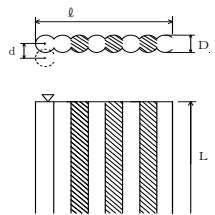
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	15		路面 切削 工	厚 さ t	-7	-2	厚さは40m毎に現舗装高切削後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。延長40m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。測定方法は自動横断測定法によることが出来る。		
						幅 w	-25	—			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	16		舗装 打換 え工	路 盤 工	幅 w	-50	各層毎1ヶ所/1施工箇所		
							延長 L	-100			
							厚さ t	該当工種			
						舗 設 工	幅 w	-25			
							延長 L	-100			
							厚さ t	該当工種			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	6 一般 舗装 工	17		オー バー レイ 工	厚 さ t	-9	厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。			
						幅 w	-25				
						延 長 L	-100				
						平 坦 性	—				3m <sup>2</sup> プロファイルター (σ)2.4mm以下直読式(足付き) (σ)1.75mm以下

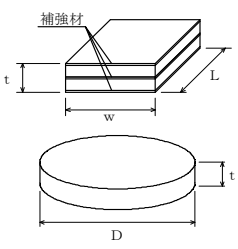


編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	2		路床安定処理工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 基準高は、道路中心線及び端部で測定。 厚さは中心線及び端部で測定。			
						施 工 厚 さ t	-50				
						幅 w	-100				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	3		置換工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。 厚さは中心線及び端部で測定。			
						置 換 厚 さ t	-50				
						幅 w	-100				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	4		表層安定処理工 (サンドマット海上)	基 準 高 $\nabla$	特記仕様書に明示	施工延長10mにつき、1測点当たり5点以上測定。  w. (L)は施工延長40mにつき1ヶ所、80m以下のものは1施工箇所につき3箇所。 (L)はセンターライン及び表裏法肩で行う。			
						法 長 $\ell$	-500				
						天 端 幅 w	-300				
						天端延長 L	-500				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	5		バイルネット工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。 杭については、当該杭の項目に準ずる。			
						厚 さ t	-50				
						幅 w	-100				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	6		サンドマット工	施 工 厚 さ t	-50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所。 厚さは中心線及び両端で掘り起こして測定。			
						幅 w	-100				
						延 長 L	-200				
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工			バーチカルドレーン工 (サンドドレーン工) (ペーパードレーン工) (袋詰式サンドドレーン工)	位 置 ・ 間 隔 w	$\pm 100$	100本に1ヶ所。 100本以下は2ヶ所測定。 1ヶ所に4本測定。 ただし、ペーパードレーンの杭径は対象外とする。			
						杭 径 D	設計値以上				
		8				締固め改良工 (サンドコンパクションバイル工)	打 込 長 さ h	設計値以上	全本数		
							サンドドレーン、袋詰式サンドドレーン、サンドコンパクションバイルの砂投入量	—			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	7 地盤 改良 工	9		固結工 (粉体噴射攪拌工) (高圧噴射攪拌工) (スラリー攪拌工) (生石灰バイル工)	基 準 高 $\nabla$	-50	100本に1ヶ所。 100本以下は2ヶ所測定。 1ヶ所に4本測定。  全本数 L = $\theta 1 - \theta 2$ $\theta 1$ は改良体先端深度 $\theta 2$ は改良体天端深度			
						位 置 ・ 間 隔 w	D/4 以内				
						杭 径 D	設計値以上				
						深 度 L	設計値以上				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	10 仮 設 工	5	1	土留・仮締切工 (H鋼杭) (鋼矢板)	基 準 高 ▽	±100	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所。延長40m（又は50m）以下のものは、1施工箇所につき2ヶ所。		
						根 入 長	設計値以上			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	10 仮 設 工	5	2	土留・仮締切工 (アンカー工)	削 孔 深 さ ℓ	設計深さ以上	全数		
						配 置 誤 差 d	100			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	10 仮 設 工	5	3	土留・仮締切工 (連節ブロック張り工)	法 長 ℓ	-100	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						延長 L <sub>1</sub> L <sub>2</sub>	-200			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	10 仮 設 工	5	4	土留・仮締切工 (締切盛土)	基 準 高 ▽	-50	施工延長50mにつき1ヶ所。延長50m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						天 端 幅 w	-100			
						法 長 ℓ	-100			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	10 仮 設 工	5	5	土留・仮締切工 (中詰盛土)	基 準 高 ▽	-50	施工延長50mにつき1ヶ所。延長50m以下のものは、1施工箇所につき2ヶ所。		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	10 仮 設 工	9		地中連続壁工（壁式）	基 準 高 ▽	±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所。延長40m（又は50m）以下のものについては1施工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1ヶ所。延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						連壁の長さ ℓ	-50			
						変 位	300			
						壁 体 長 L	-200			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	10 仮 設 工	10		地中連続壁工（柱列式）	基 準 高 ▽	±50	基準高は施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所。延長40m（又は50m）以下のものについては1施工箇所につき2ヶ所。 変位は施工延長20m（測点間隔25mの場合は25m）につき1ヶ所。延長20m（又は25m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		D：杭径
						連壁の長さ ℓ	-50			
						変 位 d	D/4以内			
						壁 体 長 L	-200			

単位：mm

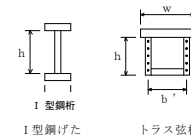
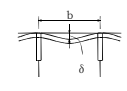
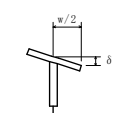
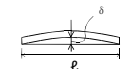
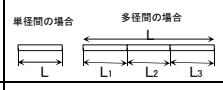
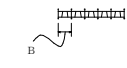
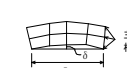
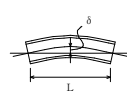
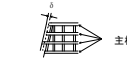
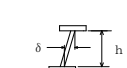
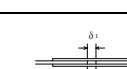
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	1	鋳造費（金属支承工）	上下部鋼構造物との接合用ボルト孔	孔の直径差	+2 -0	製品全数を測定。			
							中心距離	センターボスを基準にした孔位置のずれ				
								≤1000mm				1以下
								センターボスを基準にした孔位置のずれ				
								>1000mm				1.5以下
							アンカーボルト（放し） 孔の直径	≤100mm				+3 -1
								>100mm				+4 -2
								孔の中心距離				JIS B 0403 CT13
							センターボス	ボスの直径				+0 -1
								ボスの高さ				+1 -0
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	1	鋳造費（金属支承工）	上咨の橋軸及び直角方向の長さ寸法	JIS B 0403 CT13	製品全数を測定。 ※1) 片面削り加工も含む。 ※2) ただし、ソールプレート接触面の橋軸及び橋軸直角方向の長さ寸法に対してはCT13を適用する。				
						全移動量 ℓ	ℓ ≤ 300mm				± 2	
							ℓ > 300mm				± ℓ / 100	
						組立高さ H	上, 下面加工仕上げ				± 3	
							コンクリート構造用				H ≤ 300mm	± 3
						H > 300mm					(H/200+3) 小数点以下切り捨て	
						普通寸法	鋳放し長さ寸法 ※1)、※2)				JIS B 0403 CT14	
							鋳放し肉厚寸法 ※1)				JIS B 0403 CT15	
							削り加工寸法				JIS B 0405 粗級	
							ガス切断寸法				JIS B 0417 B級	
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	2	鋳造費（大型ゴム支承工）	幅 w 長さ L 直径 D	w, L, D ≤ 500	0 ~ + 5	製品全数を測定。 平面度：1個のゴム支承の厚さ（t）の最大相対誤差			
							500 < w, L, D ≤ 1500mm	0 ~ + 1 %				
							1500 < w, L, D	0 ~ + 15				
							厚さ t	t ≤ 20mm				± 0.5
								20 < t ≤ 160				± 2.5 %
								160 < t				± 4
							平面度	1				

出来形管理基準及び規格値

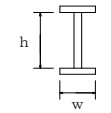
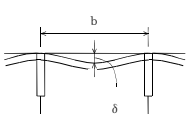

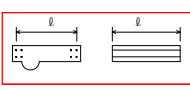
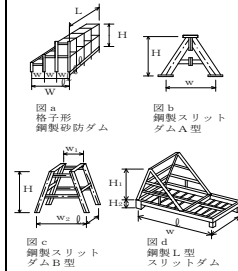

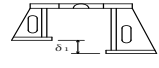

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土木工事共通編	2 一般施工	12 工場製作工 共通	1	3	仮設材製作工	部 材	部材長 $\ell$ (m) $\pm 3 \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \ell > 10$	図面の寸法表示箇所にて測定。		
						刃 口 高 さ $h$ (m) $\pm 2 \dots h \leq 0.5$ $\pm 3 \dots 0.5 < h \leq 1.0$ $\pm 4 \dots 1.0 < h \leq 2.0$	図面の寸法表示箇所にて測定。			
						外周長 $L$ (m) $\pm (10+L/10)$				

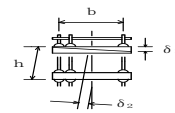


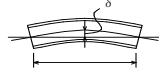
単位: mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要																
								鋼桁等	トラス・アーチ等																		
3	土木工事共通編	2	一般施工	12	工場製作工 共通	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合)  (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	部材精度	7分筋幅 w (m)	$\pm 2 \dots$ $\pm 3 \dots$	$w \leq 0.5$ $0.5 < w \leq 1.0$	主桁・主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き 取った部材の中央付近を測定。 なお、JISマーク表示品を使用する場合は、製造工場の発行するJISに基づく試験成績表に替えることができる。	 I型鋼桁 I型鋼げた トラス弦材													
										腹板高 h (m)	$\pm 4 \dots$	$1.0 < w \leq 2.0$															
										腹板間隔 b' (m)	$\pm (3+w/2) \dots$	$2.0 < w$															
										板の平面度 δ (mm)	$h/250$					主桁 各支点及び各支間中央付近を測定。  h: 腹板高 (mm) b: 腹板又はリブの間隔 (mm) w: フランジ幅 (mm)											
										箱桁及びトラス等のフランジ鋼床版のデッキプレート	$b/150$																
										フランジの直角度 δ (mm)	$w/200$							原則として仮組立をしない状態の部材について、主要部材全数を測定。									
										鋼桁	$\pm 3 \dots \ell \leq 10$ $\pm 4 \dots \ell > 10$																
										トラス、アーチなど	$\pm 2 \dots \ell \leq 10$ $\pm 3 \dots \ell > 10$																
										圧縮材の曲がり δ (mm)	$\ell/1000$									主要部材全数を測定。 ℓ: 部材長 (mm)							
										※規格値のw, ℓに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度δ, フランジの直角度δ, 圧縮材の曲りδ」の規格値のh, b, w, ℓに代入する数値はmm単位の数値とする。																	
3	土木工事共通編	2	一般施工	12	工場製作工 共通	3	1	桁製作工 (仮組立による検査を実施する場合)  (シミュレーション仮組立検査を行う場合)	仮組立精度	全長 L (m)	$\pm (10+L/10)$		主桁、主構全数を測定。	 単径間の場合 多径間の場合													
										支間長 Ln (m)	$\pm (10+Ln/10)$																
										主桁、主構の中心間距離 B (m)	$\pm 4 \dots$ B ≤ 2 $\pm (3+B/2) \dots$ B > 2											各支点及び各支間中央付近を測定。					
										主構の組立高さ h (m)	$\pm 5 \dots$ h ≤ 5 $\pm (2.5+h/2) \dots$ h > 5																
										主桁、主構の通り δ (mm)	$5+L/5 \dots$ L ≤ 100 25... L > 100					最も外側の主桁又は主構について支点及び支間中央の1点を測定。											
										主桁、主構のそり δ (mm)	$-5 \sim +5 \dots$ L ≤ 20 $-5 \sim +10 \dots$ 20 < L ≤ 40 $-5 \sim +15 \dots$ 40 < L ≤ 80 $-5 \sim +25 \dots$ 80 < L ≤ 200							各主桁について10各主構の各格点を～12m間隔を測定。  L: 主桁の支間長 (m) L: 主構の支間長 (m)									
										主桁、主構の橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ± 10													どちらか一方の主桁(主構)端を測定。			
										主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	$3+h/1,000$															各主桁の両端部を測定。 h: 主桁の高さ (mm)	
										現場継手部のすき間 δ1, δ2 (mm)	設計値 ± 5									主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ1, δ2のうち大きいもの 設計値が5mm以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。							
										※規格値のL, B, hに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「主桁、主構の鉛直度δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。																	

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要						
3	土木工事共通編	2	一般施工	12	工場製作工 共通	3	2	桁製作工 (仮組立検査を実施しない場合)	フランジ幅 w (m)	±2…… ±3…… w ≤ 0.5 5 < w ≤ 1.0	主桁、主構 各支点及び各支間中央付近を測定。 床組など 構造別に、5部材につき1個抜き取った 部材の中央付近を測定。		I型鋼桁			
									腹板高 h (m)	±4…… 1.0 < w ≤ 2.0 ±(3+w/2)…… 2.0 < w						
									部材精度	鋼桁等の部材の腹板				h/250	上げた 各支点及び各支間中央付近を測定。 h：腹板高 (mm) b：腹板又はリブの間隔 (mm) w：フランジ幅 (mm)	
										箱桁等のフランジ鋼床版のデッキプレート				b/150		
									フランジの直角度 δ (mm)	w/200						
部材長 ℓ (m)	鋼桁 ±3… ℓ ≤ 10 ±4… ℓ > 10	主要部材全数を測定。														
<p>※規格値のw,に代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「板の平面度δ, フランジの直角度δ」の規格値のh, b, wに代入する数値はmm単位の数値とする。</p>																
3	土木工事共通編	2	一般施工	12	工場製作工 共通	3	3	桁製作工 (鋼製堰堤製作工(仮組立時))	部材の水平度	10	全数を測定。					
									堤 長 L	±30						
									堤 長 ℓ	±10						
									堤 幅 W	±30						
									堤 幅 w	±10						
									高 さ H	±10						
									ベースプレートの高さ	±10						
									本体の傾き	±H/500						
3	土木工事共通編	2	一般施工	12	工場製作工 共通	4		検査路製作工	部材	部材長 ℓ (m)	±3… ℓ ≤ 10 ±4… ℓ > 10	図面の寸法表示箇所で測定。				
3	土木工事共通編	2	一般施工	12	工場製作工 共通	5		鋼製伸縮継手製作工	部材	部材長 w (m)	0～+30	製品全数を測定。				
									仮組立時	組合せる伸縮装置との高さの差 δ1 (mm)	設計値 ±4				両端及び中央部付近を測定。	
										フィンガーの食い違い δ2 (mm)	±2	(実測値) δ = 				

単位：mm

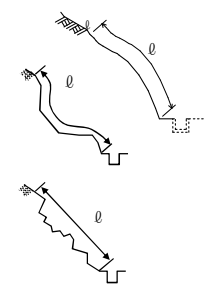
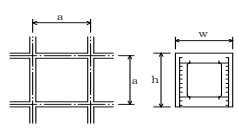
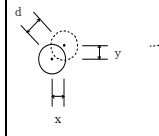
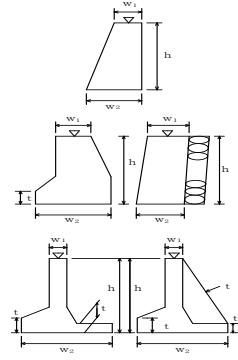
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工	6		落橋防止装置製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	±3…ℓ ≤10 ±4…ℓ >10	図面の寸法表示箇所にて測定。		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工	7		橋梁用防護柵製作工	部 材	部 材 長 ℓ (m)	±3…ℓ ≤10 ±4…ℓ >10	図面の寸法表示箇所にて測定。		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工	8		アンカーフレーム製作工	仮 組 立 時	上 面 水 平 度 δ1 (mm)	b/500	軸心上全数測定。		
							鉛 直 度 δ2 (mm)	h/500			
							高 さ h (mm)	±5			
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工	9		プレビュー用桁製作工	部 材	フ ラ ン ジ 幅 w (m)	±2… w ≤0.5 ±3… 0.5 < w ≤1.0 ±4… 1.0 < w ≤2.0 ±(3+w/2)… 2.0 < w	各支点及び各支間中央付近を測定。		I 型鋼桁
							腹板高 h (m)				
							フランジの直角度 δ (mm)	w/200			
						部材長 ℓ (m)	±3…ℓ ≤10 ±4…ℓ >10	原則として仮組立をしない部材について 主要部材全数で測定。			
仮 組 立 時	主桁のそり δ	-5～+5 …L ≤20 -5～+10 …20 < L ≤40	各主桁について10～12m間隔を測定。								
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工	10		鋼製排水管製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	±3…ℓ ≤10 ±4…ℓ >10	図面の寸法表示箇所にて測定。		
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	12 工場 製作 工	11		工場塗装工	塗 膜 厚	a. ロット塗膜厚の平均値は、目標塗膜厚合計値の90%以上。 b. 測定値の最小値は、目標塗膜厚合計値の70%以上。 c. 測定値の分布の標準偏差は、目標塗膜厚合計値の20%以下。ただし、測定値の平均値が目標塗膜厚合計値より大きい場合はこの限りではない。	外面塗装では、無機ジンクリッチペイントの塗付後と上塗り終了時に測定し、内面塗装では内面塗装終了時に測定。 1ロットの大きさは、500㎡とする。 1ロット当たり測定数は25点とし、各点の測定は5回行い、その平均値をその点の測定値とする。ただし、1ロットの面積が200㎡に満たない場合は10㎡ごとに1点とする。			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3	土木 工事 共通 編	2	一般 施工	13	橋梁 架設 工	架設工（鋼橋） （クレーン架設） （ケーブルクレーン架設） （ケーブルエレクション架設） （架設桁架設） （送出し架設） （トラベラークレーン架設）	全 長 L (m) 支間長 L <sub>a</sub> (m)	± (20+L/5) ± (20+L <sub>a</sub> /5)	各桁毎に全数測定。		
							通 り δ (mm)	± (10+2L/5)	L：主桁・主構の支間長(m)		
							そ り δ (mm)	± (25+L/2)	主桁、主構を全数測定。 L：主桁・主構の支間長(m)		
							※主桁、主構の中心間距離B(m)	±4..... B≤2 ±(3+B/2)...B>2	各支点及び各支間中央付近を測定。		
							※主桁の橋端における出入差 δ (mm)	設計値 ±10	どちらか一方の主桁（主構）端を測定。		
							※主桁、主構の鉛直度 δ (mm)	3+h/1,000	各主桁の両端部を測定。h：主桁・主構の高さ(mm)		
							※現場継手部のすき間 δ <sub>1</sub> , δ <sub>2</sub> (mm)	設計値 ±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 δ <sub>1</sub> , δ <sub>2</sub> のうち大きいもの設計値が5mm以下の場合は、マイナス側については設計値以上とする。		
									※は仮組立検査を実施しない工事に適用。		
							※規格値のL、Bに代入する数値はm単位の数値である。 ただし、「上げた、主構の鉛直度 δ」の規格値のhに代入する数値はmm単位の数値とする。				
3	土木 工事 共通 編	2	一般 施工	13	橋梁 架設 工	架設工（コンクリート橋）	全 長・支 間	—	各桁毎に全数測定。		
						（クレーン架設） （架設桁架設）	桁の中心間距離	—	一連毎の両端及び支間中央について各上下間を測定。		
						架設工支保工（固定） （移動）	そ り	—	主桁を全数測定。		
						架設桁架設（片持架設） （押出し架設）					
3	土木 工事 共通 編	2	一般 施工	14	2	1	植生工 （種子散布工） （張芝工） （筋芝工） （市松芝工） （植生シート工） （植生マット工） （植生筋工） （人工張芝工） （植生穴工）	切土 法長 ℓ	ℓ < 5 m	-200	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。
									ℓ ≥ 5 m	法長の-4%	
								盛土 法長 ℓ	ℓ < 5 m	-100	
									ℓ ≥ 5 m	法長の-2%	
								延 長 L		-200	1施工箇所毎
3	土木 工事 共通 編	2	一般 施工	14	2	2	植生工 （植生基材吹付工） （客土吹付工）	法長 ℓ	ℓ < 5 m	-200	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。
									ℓ ≥ 5 m	法長の-4%	
								厚さ t	t < 5 cm	-10	施工面積200㎡につき1ヶ所、面積200㎡以下のものは、1施工箇所につき2ヶ所。 検査孔により測定。
									t ≥ 5 cm	-20	
								延 長 L		-200	1施工箇所毎



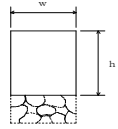
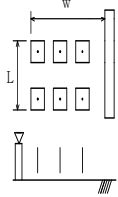
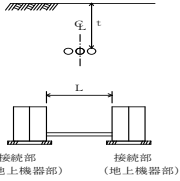
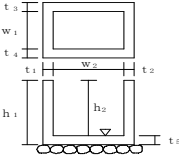
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要									
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	14 法面 工	3		吹付工 (コンクリート) (モルタル)	法長 ℓ	ℓ < 3m	-50	施工延長40mにつき1ヶ所、40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所、測定断面に凹凸があり、曲線法長の測定が困難な場合は直線法長とする。										
							ℓ ≥ 3m	-100											
						厚さ t	t < 5cm	-10				200㎡につき1ヶ所以上、200㎡以下は2ヶ所をせん孔により測定。							
							t ≥ 5cm	-20											
								ただし、吹付面に凹凸がある場合の最小吹付厚は、設計厚の50%以上とし、平均厚は設計厚以上											
						延 長 L						-200		1施工箇所毎					
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	14 法面 工	4	1	法枠工 (現場打枠工) (現場吹付法枠工)	法長 ℓ	ℓ < 10m	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		曲線部は設計図書による								
							ℓ ≥ 10m	-200											
						幅 w						-30	枠延長100mにつき1ヶ所、枠延長100m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。						
						高 さ h						-30							
						枠中心間隔 a						±100							
						延 長 L						-200	1施工箇所毎						
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	14 法面 工	4	2	法枠工 (プレキャスト法枠工)	法長 ℓ	ℓ < 10m	-100	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。										
							ℓ ≥ 10m	-200											
						延 長 L					-200	1施工箇所毎							
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	14 法面 工	6		アンカー工	削孔深さ ℓ	設計値以上	全数											
						配置誤差 d	100												
						せん孔方向 θ	±2.5度												
													$d = \sqrt{x^2 + y^2}$						
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	15 擁壁 工	1		(一般事項) 場所打擁壁工	基準高 ▽	±50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。											
						厚 さ t	-20												
						裏 込 厚 さ	-50												
						幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>							-30						
						高 さ h	h < 3m				-50								
							h ≥ 3m				-100								
						延 長 L							-200	1施工箇所毎					

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	15 擁壁 工	2		プレキャスト擁壁工	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						延 長 L	-200				1施工箇所毎
3 土木 工事 共通 編	2 共通 的 工 種	15 擁壁 工	3		補強土壁工 （補強土（テールアルメ）壁工法） （多数アンカー式補強土工法） （ジオテキスタイルを用いた補強土工法）	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						高 さ h	h < 3m				-50
							h ≥ 3m				-100
						鉛 直 度 △	±0.03hかつ±300以内				
						控 え 長 さ	設計値以上				
						延 長 L	-200				
	1施工箇所毎										
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	15 擁壁 工	4		井桁ブロック工	基 準 高 ▽	±50	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						法 長 φ	φ < 3m				-50
							φ ≥ 3m				-100
						厚 さ t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub> , t <sub>3</sub>	-50				
						延 長 L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	-200				
	1施工箇所毎										
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	16 浚 渫 工	3	1	浚渫船運転工 （ポンプ浚渫船）	基 準 高 ▽	電 気 船	200ps	-800～+200		
								500ps	-1000～+200		
								1000ps	-1200～+200		
							デ ー ジ ー ル 船	250ps	-800～+200		
								420ps	-1000～+200		
								600ps	-1000～+200		
							1350ps	-1200～+200			
						幅	-200				
延 長	-200										
	1施工箇所毎										
3 土木 工事 共通 編	2 一般 施工	16 浚 渫 工	3	2	浚渫船運転工 （グラブ浚渫船） （バックホウ浚渫船）	基 準 高 ▽	+200以下	延長方向は、設計図書により指定された測点毎。 横断方向は、5m毎。 また、斜面は法尻、法肩とし必要に応じ中間点も加える。ただし、各測定値の平均値の設計基準高以下であること。			
						幅	-200				
						延 長	-200				
							1施工箇所毎				

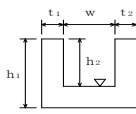
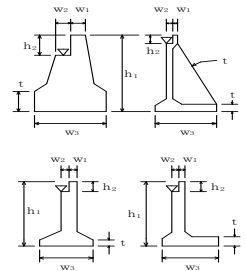
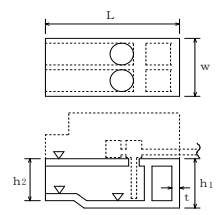
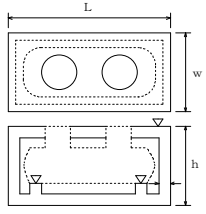
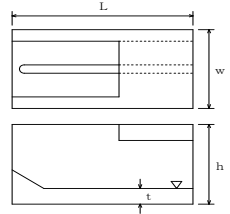
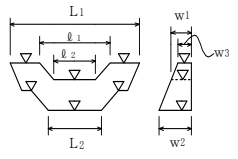
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
3 土 木 工 事 共 通 編	2 一 般 施 工	18 床 版 工	2		床版工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$	基準高は、1 径間当たり 2ヶ所（支点付近）で、1 箇所当たり両端と中央部の 3 点、幅は 1 径間当たり 3ヶ所、厚さは型枠設置時におおむね 10㎡に 1ヶ所測定。（床版の厚さは、型枠検査をもって代える。）		
						幅 w	$0 \sim +30$			
						厚 さ t	$-10 \sim +20$			
						鉄筋のかぶり	設計値以上	1 径間当たり 3 断面（両端及び中央）測定。1 断面の測定箇所は断面変化毎 1ヶ所とする。		
						鉄筋の有効高さ	$\pm 10$			
						鉄 筋 間 隔	$\pm 20$	1 径間当たり 3ヶ所（両端及び中央）測定。 1ヶ所の測定は、橋軸方向の鉄筋は全数、橋軸直角方向の鉄筋は加工形状毎に 2m の範囲を測定。		
上記、鉄筋の有効高さがマイナスの場合	$\pm 10$									
4 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	7 法 覆 護 岸 工	4		護岸付属物工	幅 w	-30			
						高 さ h	-30			
4 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	10 水 制 工	8		杭出し水制工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 50$	1 組毎		
						幅 w	$\pm 300$			
						方 向	$\pm 7^\circ$			
						延 長 L	-200			
4 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	13 光 ケ ー プ ル 配 管 工	3		配管工	埋 設 深 t	$0 \sim +50$	接続部（地上機器部）間毎に 1ヶ所。		
						延 長 L	-200			
4 河 川 編	1 築 堤 ・ 護 岸	13 光 ケ ー プ ル 配 管 工	4		ハンドホール工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合		
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20			
						※幅 $w_1, w_2$	-30			
						※高さ $h_1, h_2$	-30			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
4 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	6	1	函渠工 (本体工)	基 準 高 ▽	±30	柔構造樋門の場合は埋戻前（載荷前）に測定する。  函渠寸法は、両端、施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。 門柱、操作台等は、図面の寸法表示箇所にて測定。 プレキャスト製品使用の場合は、製品寸法を規格証明書で確認するものとし、『基準高』と『延長』を測定。			
						厚 さ $t_1 \sim t_8$	-20				
						幅 $w_1, w_2$	-30				
						内空幅 $w_3$	-30				
						内空高 $h_1$	±30				
						延 長 $L$	-200				
4 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	6	2	函渠工 (ヒューム管) (PC管) (コルゲートパイプ) (ダクタイル鋳鉄管)	基 準 高 ▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						延 長 $L$	-200				
4 河川 編	3 樋門・ 樋管	5 樋門・ 樋管本 体工	7 8		翼壁工 水叩工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。			
						厚 さ $t$	-20				
						幅 $w$	-30				
						高 さ $h$	±30				
						延 長 $L$	-50				
4 河川 編	4 水門	6 水門本 体工	7 8 9 10 11		床版工 堰柱工 門柱工 ゲート操作台工 胸壁工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。			
						厚 さ $t$	-20				
						幅 $w$	-30				
						高 さ $h$	±30				
						延 長 $L$	-50				
4 河川 編	5 堰	6 可動堰 本体工	13 14		開門工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	図面の寸法表示箇所にて測定。			
						厚 さ $t$	-20				
						幅 $w$	-30				
						高 さ $h$	±30				
						延 長 $L$	-50				
4 河川 編	5 堰	7 固定 堰本 体工	8 9 10		堰本体工 水叩工 土砂吐工	基 準 高 ▽	±30	基準高、幅、高さ、厚さは両端、施工継手箇所及び構造図の寸法表示箇所にて測定。			
						厚 さ $t$	-20				
						幅 $w$	-30				
						高 さ $h$	±30				
						堰 長 $L$	$L < 20m$				-50
							$L \geq 20m$				-100

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
4 河川編	5 堰	8 魚道工	3		魚道本体工	基準高▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						厚さ t <sub>1</sub> , t <sub>2</sub>	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub>	-30			
						延長 L	-200			
4 河川編	5 堰	9 管理橋下部工	2		管理橋橋台工	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は図面の寸法表示箇所にて測定。		
						厚さ t	-20			
						天端幅 w <sub>1</sub> (橋軸方向)	-10			
						天端幅 w <sub>2</sub> (橋軸方向)	-10			
						敷幅 w <sub>3</sub> (橋軸方向)	-50			
						高さ h <sub>1</sub>	-50			
						胸壁の高さ h <sub>2</sub>	-30			
						天端長 ℓ <sub>1</sub>	-50			
						敷長 ℓ <sub>2</sub>	-50			
						胸壁間距離 ℓ	±30			
						支点長及び中心線の変化	±50			
4 河川編	6 排水機場	4 機場本体工	6		本体工	基準高▽	±30	図面の表示箇所にて測定。		
						厚さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub>	±30			
						延長 L	-50			
4 河川編	6 排水機場	4 機場本体工	7		燃料貯油槽工	基準高▽	±30	図面の表示箇所にて測定。		
						厚さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h	±30			
						延長 L	-50			
4 河川編	6 排水機場	5 沈砂池工	7		コンクリート床版工	基準高▽	±30	図面の表示箇所にて測定。		
						厚さ t	-20			
						幅 w	-30			
						高さ h	±30			
						延長 L	-50			
4 河川編	7 床止め・床固め	4 床止め工	6		本体工 (床固め本体工)	基準高▽	±30	図面に表示してある箇所にて測定。		
						天端幅 w <sub>1</sub> , w <sub>3</sub>	-30			
						堤幅 w <sub>2</sub>	-30			
						堤長 L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	-100			
						水通し幅 ℓ <sub>1</sub> , ℓ <sub>2</sub>	±50			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
4 河川編	7 床止め・床固め	4 床止め工	8		水叩工	基準高▽	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。			
						厚 さ t	-30				
						幅 w	-100				
						延 長 L	-100				
4 河川編	7 床止め・床固め	5 床固め工	6		側壁工	基準高▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。			
						天 端 幅 w <sub>1</sub>	-30				
						堤 幅 w <sub>2</sub>	-30				
						長 さ L	-100				
5 砂防編	1 砂防堰堤	3 工場製作工	4		鋼製堰堤仮設材製作工	部 材	部材長 ℓ (m)	±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10	図面の寸法表示箇所で測定。		
5 砂防編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	4		コンクリート堰堤本工	基準高▽	±30	図面の表示箇所で測定。			
						天端部堤幅 w <sub>1</sub> , w <sub>3</sub>	-30				
						水通しの幅 ℓ <sub>1</sub> , ℓ <sub>2</sub>	±50				
						堤 長 L <sub>1</sub> , L <sub>2</sub>	-100				
5 砂防編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	6		コンクリート側壁工	基準高▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所で測定。 2. 上記以外の測定箇所の標準は、天端幅・天端高で各測点及びジョイント毎に測定。 3. 長さは、天端中心線の水平延長、又は、測点に直角な水平延長を測定。			
						幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30				
						長 さ L	-100				
5 砂防編	1 砂防堰堤	8 コンクリート堰堤工	8		水叩工	基準高▽	±30	基準高、幅、延長は図面に表示してある箇所で測定。 厚さは目地及びその中間点で測定。			
						幅 w	-100				
						厚 さ t	-30				
						延 長 L	-100				
5 砂防編	1 砂防堰堤	9 鋼製堰堤本工	5	1	鋼製堰堤本工 (不透過型)	堤 高▽	±50	1. 図面の表示箇所で測定する。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。			
						長 さ ℓ <sub>1</sub> , ℓ <sub>2</sub>	±100				
						幅 w <sub>1</sub> , w <sub>3</sub>	±50				
						下流側倒れ △	±0.02H <sub>1</sub>				
						袖 高▽	±50				
						幅 w <sub>2</sub>	±50				
下流側倒れ △	±0.02H <sub>2</sub>										

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5 砂防編	1 砂防堰堤	9 鋼製堰堤工	5	2	鋼製堰堤本體工 (透過型)	堤長 L 格	±50	(備考) 格：格子型鋼製砂防ダム A：鋼製スリットダム A型 B：鋼製スリットダム B型 L：鋼製スリットダム L型		
						堤長 $\phi$ 格・B・L	±10			
						堤幅 W 格	±30			
						堤幅 w 格・A・B・L	±10			
						高さ H 格・A・B・L	±10			
5 砂防編	1 砂防堰堤	9 鉄製堰堤工	6		鋼製側壁工	堤 高 $\nabla$	±50	1. 図面に表示してある箇所測定。 2. ダブルウォール構造の場合は、堤高、幅、袖高は+の規格値は適用しない。		
						長 さ L	±100			
						幅 $w_1, w_2$	±50			
						下流側倒れ $\Delta$	±0.02H			
						高さ h	h < 3m h ≥ 3m			
5 砂防編	2 流路	5 床固め工	8		魚道工	基 準 高 $\nabla$	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						幅 w	-30			
						高さ $h_1, h_2$	-30			
						厚 さ $t_1, t_2$	-20			
						延 長 L	-200			
5 砂防編	3 斜面对策	6 山腹水路工	4		山腹明暗渠工	基 準 高 $\nabla$	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。		
						厚 さ $t_1, t_2$	-20			
						幅 w	-30			
						幅 $w_1, w_2$	-50			
						高さ $h_1, h_2$	-30			
						深 さ $h_3$	-30			
延 長 L	-200									
5 砂防編	3 斜面对策	7 地下水排除工	4		集排水ボーリング工	削 孔 深 さ $\phi$	設計値以上	全数		
						配 置 誤 差 d	100			
						せん孔方向 $\theta$	±2.5度			
5 砂防編	3 斜面对策	7 地下水排除工	5		集水井工	基 準 高 $\nabla$	±50	全数測定。 偏心量は、杭頭と底面の差を測定。		
						偏 心 量 d	150			
						長 さ L	-100			
						巻 立 て 幅 w	-50			
						巻 立 て 厚 さ t	-30			

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
5	5	3	9	6	合成杭工	基準高▽	±50	全数測定。		
						偏心量 d	D/4以内かつ100以内			
6	1	4			コンクリートダム工 (本体)	天端高▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高(越流部堤頂高を含む)は、各ジョイントについて測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて5リフトごとに測定。 (注) 堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔(横継目)は、5リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、天端中心線延長を測定。 3. ①越流堤頂部、天端仕上げなどの平坦性の測定方法は、監督職員の指示による。 ②監査廊の敷高、幅、高さ、平坦性などの測定方法は監督職員の指示による。		
						天端幅	±20			
						ジョイント間隔	±30			
						リフト高	±50			
						堤幅	-30, +50			
						堤長	-100			
6	1	4			コンクリートダム工 (水叩)	天端高▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高(敷高)、ジョイント間は各ジョイント、各測定の交差点を測定。 ②長さは、各ジョイントごとに測定。 ③幅は、各測点ごとに測定。 3. 水叩の平坦性の測定は監督職員の指示による。		
						ジョイント間隔	±30			
						幅	±40			
						長さ	-100, +60			
6	1	4			コンクリートダム工 (副ダム)	天端高▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高は、各ジョイントごとに測定。 ②堤幅、リフト高は、各ジョイントについて3リフトごとに測定。 (注) 堤幅、リフト高の測定は、上下流面型枠と水平打継目の接触部とする。(堤幅は、中心線又は、基準線との関係づけも含む) ③ジョイント間隔は、3リフトごと上流端、下流端を対象に測定。 ④堤長は、各測点ごとに測定。		
						ジョイント間隔	±30			
						リフト高	±50			
						堤幅	-30, +50			
						堤長	±40			



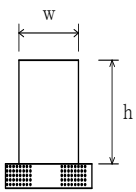
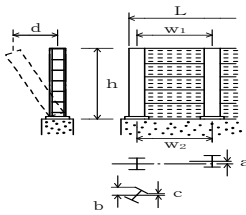
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
6 ダム 編	1 コン クリ ート ダム	4 ダム コン クリ ート 工			コンクリートダム工 (導流壁)	天 端 高 ▽	±30	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 上記以外の測定箇所は、下記を標準とする。 ①天端高、天端幅は、各測点、又はジョイントごとに測定。 ②リフト高、厚さは、各測点、又はジョイントについて3リフトごとに測定。 (注) リフト高、厚さの測定は、前面、背面型枠設置後からとする。なお、リフト高、厚さの測定箇所は、前面背面型枠と水平打継目の接触部とする。 ③長さは、天端中心線の水平延長又は、測点に直角な水平延長を測定。		
						ジョイント間隔	±20			
						リフト高	±50			
						長 さ	±100			
						厚 さ	±20			
6 ダム 編	2 フィ ルダム	4 盛立 工	5		コアの盛立	基 準 高 ▽	設計値以上	各測点について5層毎に測定。 ※外側境界線は標準機種（タンピングローフ）の場合	J：ジョイント	
						外 側 境 界 線	-0, +500			
6 ダム 編	2 フィ ルダム	4 盛立 工	6		フィルターの盛立	基 準 高 ▽	-0	各測点について5層毎に測定。		
						外 側 境 界 線	-0, +1000			
						盛 立 幅	-0, +1000			
6 ダム 編	2 フィ ルダム	4 盛立 工	7		ロックの盛立	基 準 高 ▽	-100	各測点について盛立5m毎に測定。		
						外 側 境 界 線	-0, +2000			
6 ダム 編	2 フィ ルダム				フィルダム (洪水吐)	基 準 高 ▽	±20	1. 図面の寸法表示箇所にて測定。 2. 1回/1施工箇所		
						ジョイント間隔	±30			
						厚 さ t	±20			
						幅 w	±40			
						リフト高さ	±20			
						長 さ L	±100			
6 ダム 編	3 基礎 グラ ウチ ング	3 ボー リ ン グ 工			ボーリング工	深 度 L	設計値以上	ボーリング工毎 ※配置位置の規定はコンクリート面で行うカーテングラウトに適用する。		
						配 置 誤 差	100			

単位：mm

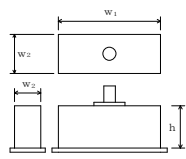
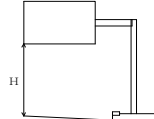
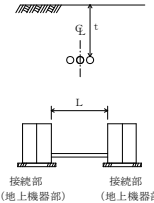
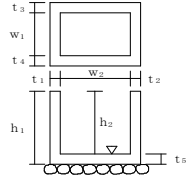
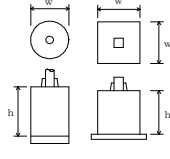
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要			
7 道路編	1 道路改良	3 工場製作工	2		遮音壁支柱製作工	部材	部材長 ℓ (m)	±3…ℓ ≤ 10 ±4…ℓ > 10	図面の寸法表示箇所にて測定。				
7 道路編	1 道路改良	9 カルバート工	6		場所打函渠工	基準高	▽	±30	両端、施工継手及び図面の寸法表示箇所にて測定。				
						厚さ	t <sub>1</sub> ~t <sub>4</sub>	-20					
						幅(内法)	w	-30					
						高さ	h	±30					
						延長L	L < 20m	-50					
	L ≥ 20m	-100											
7 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	4		落石防止網工	幅	w	-200	1施工箇所毎				
						延長	L	-200					
7 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	5		落石防護柵工	高さ	h	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。				
						延長	L	-200					1施工箇所毎
7 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	6		防雪柵工	高さ	h	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。				
						延長	L	-200					1施工箇所毎
						基礎	幅	w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30	基礎1基毎			
							高さ	h	-30				
7 道路編	1 道路改良	11 落石雪害防止工	7		雪崩予防柵工	高さ	h	±30	施工延長40m(測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、施工延長40m(又は50m)以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。				
						延長	L	-200					1施工箇所毎
						基礎	幅	w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30	基礎1基毎			
							高さ	h	-30				
						アンカー	打込み	ℓ	-10%	全数			
埋込み	ℓ	-5%											

単位：mm

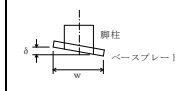

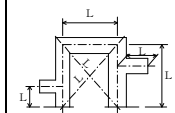
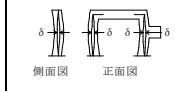
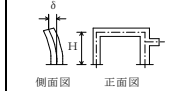
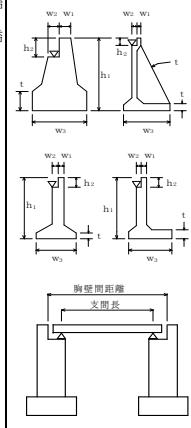
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 道路 編	1 道路 改良	12 遮音壁 工	4		遮音壁基礎工	幅 w	-30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、施工延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						高 さ h	-30				
						延 長 L	-200				1 施工箇所毎
7 道路 編	1 道路 改良	12 遮音壁 工	5		遮音壁本体工	支柱	間隔 $w_1, w_2$	$\pm 15$	施工延長5スパンにつき1ヶ所		
							ず れ a	10			
							ねじれ b-c	5			
							倒 れ d	$h \times 0.5\%$			
						高 さ h	+30, -20	1 施工箇所毎			
						延 長 L	-200				

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値			測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)		10個の測定値の平均 (X <sub>10</sub> )			
							中規模以上	小規模以下				
7 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工			歩道路盤工 取合舗装路盤工 路肩舗装路盤工	基準高▽	±50	—	基準高は片側延長40m毎に1ヶ所の割で測定。 厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所掘り起こして測定。 幅は、片側延長80m毎に1ヶ所測定。 ※両端部2点で測定する。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として両端部2点で測定する。	工事規模の考え方 中規模とは、1層あたりの施工面積が2000㎡以上とする。 小規模とは、表層及び基層の加熱アスファルト混合物の総使用量が500t未満あるいは施工面積が2000㎡未満。 厚さは、個々の測定値が10個に9個以上の割合で規格値を満足しなければならないとともに、10個の測定値の平均値 (X <sub>10</sub> ) について満足しなければならない。ただし、厚さのデータ数が10個未満の場合は測定値の平均値は適用しない。 コア採取について 橋面舗装等でコア採取により床版等に損傷を与える恐れのある場合は、他の方法によることが出来る。		
						厚さ	t < 15cm	-30				-10
							t ≧ 15cm	-45				-15
						幅	-100	—				
7 道 路 編	2 舗 装	4 舗 装 工			歩道舗装工 取合舗装工 路肩舗装工 表層工	厚 さ	-9	-3	幅は、片側延長80m毎に1ヶ所の割で測定。厚さは、片側延長200m毎に1ヶ所コアを採取して測定。  ※厚さは、下がり寸法管理も可とし、その場合は、原則として両端部2点で測定する。			
						幅	-25	—				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 道路 編	2 舗装	5 排水 構造 物工	9		排水性舗装用路肩排水工	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						延 長 L	-200	1ヶ所/1施工箇所			
7 道路 編	2 舗装	7 踏 掛 版工	4		踏掛版工 (コンクリート工)	基 準 高	$\pm 20$	1ヶ所/1踏掛版			
						各 部 の 厚 さ	$\pm 20$	1ヶ所/1踏掛版			
						各 部 の 長 さ	$\pm 30$	1ヶ所/1踏掛版			
					(ラバーシュー)	各 部 の 長 さ	$\pm 20$	全数			
						厚 さ	—				
						(アンカーボルト)	中 心 の ず れ	$\pm 20$			全数
ア ン カ ー 長	$\pm 20$	全数									
7 道路 編	2 舗装	9 標 識 工	4	1	大型標識工 (標識基礎工)	幅 $w_1, w_2$	-30	基礎一基毎			
						高 さ h	-30				
7 道路 編	2 舗装	9 標 識 工	4	2	大型標識工 (標識柱工)	設置高さ H	設計値以上	1ヶ所/1基			
7 道路 編	2 舗装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	1	ケーブル配管工	埋 設 深 t	0~+50	接続部間毎に1ヶ所			
						延 長 L	-200				接続部間毎で全数
7 道路 編	2 舗装	12 道 路 付 属 施 設 工	5	2	ケーブル配管工 (ハンドホール)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 30$	1ヶ所毎 ※印は、現場打ちのある場合			
						※厚さ $t_1 \sim t_5$	-20				
						※幅 $w_1, w_2$	-30				
						※高さ $h_1, h_2$	-30				
7 道路 編	2 舗装	12 道 路 付 属 施 設 工	6		照明工 (照明柱基礎工)	幅 w	-30	1ヶ所/1施工箇所			
						高 さ h	-30				

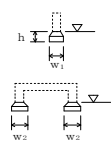
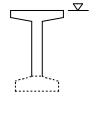
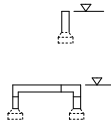


単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要						
7 道路編	3 橋梁下部	3 工場製作工	3		鋼製橋脚製作工	部 材	脚柱とベースプレートとの鉛直度 $\delta$ (mm)	$w/500$	各脚柱、ベースプレートを測定。							
							ベースプレート	孔の位置	$\pm 2$	全数を測定。						
								孔の径 d	$0 \sim 5$	全数を測定。						
						仮 組 立 時	柱の中心間隔、対角長 L (m)	$\pm 5 \dots L \leq 10m$ $\pm 10 \dots 10 < L \leq 20m$ $\pm (10 + (L - 20)/10) \dots 20m < L$	両端部及び片持り部を測定。							
							はりのキャンパー及び柱の曲がり $\delta$ (mm)	$L/1,000$	各主構の各格点を測定。							
							柱の鉛直度 $\delta$ (mm)	$10 \dots H \leq 10$ $H \dots H > 10$	各柱及び片持り部を測定。 H：高さ (m)							
						7 道路編	3 橋梁下部	6 橋台工	8		橋台躯体工	基準高 $\nabla$	$\pm 20$	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。箱抜き形状の詳細については「道路橋支保便覧」による。		
												厚 さ t	-20			
												天 端 幅 $w_1$ (橋軸方向)	-10			
												天 端 幅 $w_2$ (橋軸方向)	-10			
敷 幅 $w_3$ (橋軸方向)	-50															
高 さ $h_1$	-50															
胸壁の高さ $h_2$	-30															
天 端 長 $l_1$	-50															
敷 長 $l_2$	-50															
胸壁間距離 $l$	$\pm 30$															
支 間 長 及 び 中心線の変位	$\pm 50$															
支 承 部 ア ン カ ー ボ ルト の 箱 抜 き 規 格 値	計画高	$+10 \sim -20$														
	平面位置	$\pm 20$														
	アンカーボルトの鉛直度	1/50以下														

単位：mm

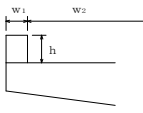
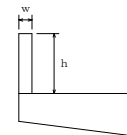
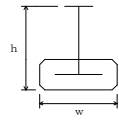
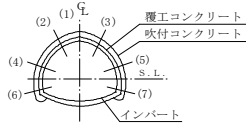
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 道路編	3 橋梁下部	7 RC橋脚工	9	1	橋脚躯体工 (張出式) (重力式) (半重力式)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。			
						厚 さ t	-20				
						天 端 幅 $w_1$ (橋軸方向)	-20				
						敷 幅 $w_2$ (橋軸方向)	-50				
						高 さ h	-50				
						天 端 長 $l_1$	-50				
						敷 長 $l_2$	-50				
						橋脚中心間距離 $l$	$\pm 30$				
						支 間 長 及 び 中心線の変位	$\pm 50$				
						支 承 部 アンカー ボルトの 箱抜き規格値	計 画 高				+10～-20
							平 面 位 置				$\pm 20$
アンカーボルトの 鉛直度	1/50以下										
7 道路編	3 橋梁下部	7 RC橋脚工	9	2	橋脚躯体工 (ラーメン式)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。 箱抜き形状の詳細については「道路橋支承便覧」による。			
						厚 さ t	-20				
						天 端 幅 $w_1$	-20				
						敷 幅 $w_2$	-20				
						高 さ h	-50				
						長 さ $l$	-20				
						橋脚中心間距離 $l$	$\pm 30$				
						支 間 長 及 び 中心線の変位	$\pm 50$				
						支 承 部 アンカー ボルトの 箱抜き規格値	計 画 高				+10～-20
							平 面 位 置				$\pm 20$
							アンカーボルトの 鉛直度				1/50以下
7 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9	1	橋脚フーチング工 (I型・T型)	基 準 高 $\nabla$	$\pm 20$	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。			
						幅 (橋軸方向) w	-50				
						高 さ h	-50				
						長 さ $l$	-50				

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要		
7 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	9	2	橋脚フーチング工 (門型)	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。				
						幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-50					
						高さ h	-50					
7 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	10	1	橋脚架設工 (I型・T型)	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。				
						橋脚中心間距離 ℓ	±30					
						支間長及び中心線の変位	±50					
7 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	10	2	橋脚架設工 (門型)	基準高▽	±20	橋軸方向の断面寸法は中央及び両端部、その他は寸法表示箇所。				
						橋脚中心間距離 ℓ	±30					
						支間長及び中心線の変位	±50					
7 道路編	3 橋梁下部	8 鋼製橋脚工	11		現場継手部のすき間 δ1, δ2 (mm)	5 ※±5	主桁、主構の全継手数の1/2を測定。 ※は耐候性鋼材(裸使用)の場合					
7 道路編	4 鋼橋上部	3 工場製作工	9		橋梁用高欄製作工	部材	部材長 ℓ (m)	±3…… ℓ ≤ 10 ±4…… ℓ > 10	図面の寸法表示箇所で測定。			
7 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合 は、水平面の高低差を1mm以下とする。 なお、支承を勾配なりに据付ける 場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で 測定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付け時のオフセット量 δ を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。				
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上					
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート 橋				±5	4+0.5 ×(B-2)
							鋼橋					
						水下 平番 度の	橋軸方向 橋軸直角方向				1/100	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5					
可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移 動量計算値の1/2 以上											
7 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ 注1)	±5	支承全数を測定。 B：支承中心間隔 (m)  上部構造部材下面とゴム支承面との接 触面及びゴム支承と台座モルタルとの 接触面に肌すきが無いことを確認。 支承の平面寸法が300mm以下の場合 は、水平面の高低差を1mm以下とす る。なお、支承を勾配なりに据付ける 場合を除く。 注1) 先固定の場合は、支承上面で 測定する。 注2) 可動支承の遊間 (La, Lb) を計測 し、支承据付け時のオフセット量 δ を考 慮して、移動可能量が道路橋支承便覧 の規格値を満たすことを確認する。 注3) 可動支承の移動量検査は、架設 完了後に実施する。 詳細は、道路橋支承便覧参照。				
						可動支承の移動 可能量 注2)	設計移動量 +10以上					
						支承中心間隔 (橋軸直角方向)	コンクリート 橋				±5	4+0.5 ×(B-2)
							鋼橋					
						水支 平番 度の	橋軸方向 橋軸直角方向				1/300	
						可動支承の橋軸 方向のずれ 同一支承線上の 相対誤差	5					
可動支承の 移動量 注3)	温度変化に伴う移 動量計算値の1/2 以上											



単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
7 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	3		落橋防止装置工	アンカーボルト孔の削孔長	設計値以上	全数測定		
						アンカーボルト定着長	-20以内 かつ -1D以内	全数測定 D：アンカーボルト径 (mm)		
7 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	5		地覆工	地覆の幅 $w_1$	-10～+20	1 径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。		
						地覆の高さ $h$	-10～+20			
						有効幅員 $w_2$	0～+30			
7 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	7		橋梁用防護柵工 橋梁用高欄工	幅 $w$	-5～+10	1 径間当たり両端と中央部の3ヶ所測定。		
						高 さ $h$	-20～+30			
7 道路編	4 鋼橋上部	8 橋梁付属物工	8		検査路工	幅	±3	1 ブロックを抽出して測定。		
						高 さ	±4			
7 道路編	5 コンクリート橋上部	6 プレキャストコンクリート橋工	2		プレキャストコンクリート橋工 (現場)	幅 $w$	±5	桁全数について測定。 横方向タワミの測定は、プレストレッシング後に測定。 桁断面寸法測定箇所は、両端部、中央部の3ヶ所とする。 ℓ：スパン長		
						高 さ $h$	10 -5			
						桁 長 ℓ スパン長	ℓ < 15…… ±10 ℓ ≥ 15…… ±(ℓ - 5) かつ -30mm以内			
						横方向最大タワミ	0.8ℓ			
7 道路編	6 トンネル (NATM)	4 支保工	3		吹付工	吹 付 け 厚 さ	設計吹付け厚以上。ただし、良好な岩盤で施工端部、突出部等の特殊な箇所は設計吹付け厚の1/3以上を確保するものとする。	施工延長40m毎に図に示す。(1)～(7)及び断面変化点の検測孔を測定。 注) 良好な岩盤とは、道路トンネル技術基準 (構造編) にいう地盤等級A又はBに該当する地盤とする。		
7 道路編	6 トンネル (NATM)	4 支保工	4		ロックボルト工	位 置 間 隔	—	施工延長40m毎に断面全本数検測。		
						角 度	—			
						削 孔 深 さ	—			
						孔 径	—			
						突 出 量	プレート下面から10cm以内			

単位：mm

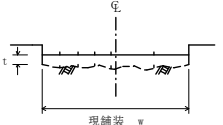
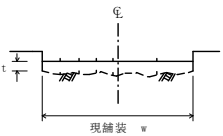
編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 道路 編	6 トンネル (NATM)	5 覆工	3		覆工コンクリート工	基準高▽ (拱頂)	±50	(1) 基準高、幅、高さは、施工40mにつき1ヶ所。 (2) 厚さ (4) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の終点を図に示す各点で測定。中間部はコンクリート打設口で測定。 (5) コンクリート打設後、覆工コンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。 (6) 検測孔による巻厚の測定は図の(1)は40mにつき1ヶ所、(2)～(3)は100mにつき1ヶ所の割合で行う。 なお、トンネル延長が100m以下のものについては、1トンネル当たり2ヶ所以上の検測孔による測定を行う。 ただし、以下の場合には、左記の規格値は適用除外とする。 ・良好な地山における岩又は吹付コンクリートの部分的な突出で、設計覆工厚の3分の1以下のもの。 ・なお、変形が収束しているものに限る。 ・異常土圧による覆工厚不足で、型枠の据付け時には安定が確認されかつ別途構造的に覆工の安全が確認されている場合。 ・鋼アーチ支保工、ロックボルトの突出。			
						幅 w (全幅)	-50				
						高さ h (内法)	-50				
						厚 さ t	設計値以上				
						延 長 L	—				
7 道路 編	6 トンネル (NATM)	5 覆工	5		床版コンクリート工	幅 w	-50	施工延長40m (測点間隔25mの場合は50m)につき1ヶ所、延長40m (又は50m) 以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。			
						厚 さ t	-30				
7 道路 編	6 トンネル (NATM)	6 インバート工	4		インバート本体工	幅 w (全幅)	-50	(1) 幅は、施工40mにつき1ヶ所。 (2) 厚さ (4) コンクリート打設前の巻立空間を1打設長の中間と終点を図に示す各点で測定。 (5) コンクリート打設後、インバートコンクリートについて1打設長の端面(施工継手の位置)において、図に示す各点の巻厚測定を行う。			
						厚 さ t	設計値以上				
						延 長 L	—				
7 道路 編	6 トンネル (NATM)	8 坑門工	4		坑門本体工	基準高▽	±50	図面の主要寸法表示箇所所で測定。			
						幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30				
						高さ h	h < 3m				-50
							h ≥ 3m				-100
						延 長 L	-200				
7 道路 編	6 トンネル (NATM)	8 坑門工	5		明り巻工	基準高▽ (拱頂)	±50	基準高、幅、高さ、厚さは、施工延長40mにつき1ヶ所を測定。 なお、厚さについては図に示す各点①～⑩において、厚さの測定を行う。			
						幅 w (全幅)	-50				
						高さ h (内法)	-50				
						厚 さ t	-20				
						延 長 L	—				

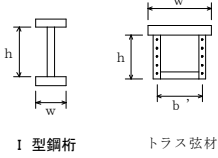
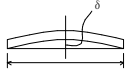
単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要	
7 道路 編	11 共同 溝	6 現場 打 構築 工	2		現場打躯体工	基準高▽	±30	両端・施工継手箇所及び図面の寸法表示箇所にて測定。			
						厚 さ t	-20				
						内 空 幅 w	-30				
						内 空 高 h	±30				
						ブロック長 L	-50				
7 道路 編	11 共同 溝	3 共 通 的 工 種	4		カラー継手工	厚 さ t	-20	図面の寸法表示箇所にて測定。			
						幅 w	-20				
						長 さ L	-20				
7 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 構築 工	5	1	防水工 (防水)	幅 w	設計値以上	両端・施工継手箇所の底版・側壁・頂版にて測定。			
7 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 構築 工	5	2	防水工 (防水保護工)	厚 さ t	設計値以上	両端・施工継手箇所の「四隅」にて測定。			
7 道路 編	11 共同 溝	6 現 場 打 構築 工	5	3	防水工 (防水壁)	高 さ h	-20	図面の寸法表示箇所にて測定。			
						幅 w	±50				
						厚 さ t	-20				
7 道路 編	11 共同 溝	7 ブ レ キ ャ ス ト 構 築 工	2		プレキャスト躯体工	基準高▽	±30	施工延長40m（測点間隔25mの場合は50m）につき1ヶ所、延長40m（又は50m）以下のものは1施工箇所につき2ヶ所。ただし、基準高の適用は据付後の段階検査時のみ適用する。			
						延 長 L	-200				延長：1施工箇所毎
7 道路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	2		管路工（管路部）	埋 設 深 t	0～+50	接続部（地上機器部）間毎に1ヶ所。 接続部（地上機器部）間毎で全数。 【管路センターにて測定】			
						延 長 L	-200				
7 道路 編	12 電 線 共 同 溝	5 電 線 共 同 溝 工	3		プレキャストボックス工（特殊部）	基準高▽	±30	接続部（地上機器部）間毎に1ヶ所。			
7 道路 編	12 電 線 共 同 溝	6 付 帯 設 備 工	2		ハンドホール工	基準高▽	±30	1ヶ所毎 ※は現場打部分のある場合			
						※厚 さ t <sub>1</sub> ～t <sub>5</sub>	-20				
						※幅 w <sub>1</sub> , w <sub>2</sub>	-30				
						※高 さ h <sub>1</sub> , h <sub>2</sub>	-30				

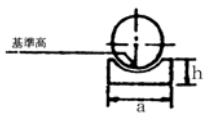
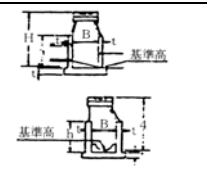
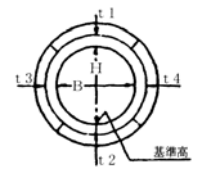

出来形管理基準及び規格値

単位：mm

編	章	節	条	枝番	工 種	測定項目	規 格 値		測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
							個々の測定値 (X)	平均の測定値 (X <sub>10</sub> )			
7 道路編	14 道路維持	4 舗装工	5		切削オーバーレイ工	厚さ t	-9		厚さは40m毎に現舗装高とオーバーレイ後の基準高の差で算出する。測定点は車道中心線、車道端及びその中心とする。 幅は、延長80m毎に1ヶ所の割とし、延長80m未満の場合は、2ヶ所/施工箇所とする。 断面状況で、間隔、測点数を変えることが出来る。	 <p>現舗装 w</p>	維持工事においては、平坦性の項目を省略することが出来る。
						幅 w	-25				
						延長 L	-100				
						平坦性	—	3mプロファイル計(σ)2.4mm以下 直読式(足付き) (σ)1.75mm以下			
7 道路編	14 道路維持	4 舗装工	7		路上再生工	厚さ t	-30		幅は延長80m毎に1ヶ所の割で測定。厚さは、各車線200m毎に左右両端及び中央の3点を掘り起こして測定。	 <p>現舗装 w</p>	
						幅 w	-50				
						延長 L	-100				
						路盤工					

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	測 定 基 準		測 定 箇 所	摘 要
								鋼桁等	トラス・アーチ等		
7 道路 編	16 道路 修繕	3 工場 製作 工	4		桁補強材製作工	フランジ幅 $w$ (m) 腹板高 $h$ (m) 腹板間隔 $b'$ (m)	$\pm 2 \dots w \leq 0.5$ $\pm 3 \dots$ $0.5 < w \leq 1.0$ $\pm 4 \dots$ $1.0 < w \leq 2.0$ $\pm (3 + w / 2)$ $\dots 2.0 < w$	主桁・主構	各支点及び各支間中央付近を測定。		
								床組など	構造別に、5部材につき1個抜き取った部材の中央付近を測定。		
								フランジの直角度 $\delta$ (mm)	$w / 200$	主桁	各支点及び各支間中央付近を測定。
圧縮材の曲がり $\delta$ (mm)	$l / 1000$	—	主要部材全数を測定。 $l$ ：部材長 (mm)								

編	章	節	条	枝番	工 種	測 定 項 目	規 格 値	
9 下水道編	1 下水道工	3 管渠布設工並びに築造工			管渠工 (開削工法)	基 準 高	± 30	
						幅	a	- 20
						高 さ	h	- 20
						延 長	長	- 0.2%
						蛇 行	行	内径の5%
9 下水道編	1 下水道工	3 管渠布設工並びに築造工			マンホール	基 準 高	接続管渠の規格値による	
						厚 さ	t	± 20
						内 の り	B	± 20
						高 さ	H	± 50
9 下水道編	1 下水道工	5 シールド工			管渠工 (シールド工)	基 準 高	± 30	
						幅	B	+ 20 - 10
						高 さ	H	+ 20 - 10
						厚 さ	t	- 50
						延 長	長	- 0.1%
蛇 行	行	内径の5%						
9 下水道編	1 下水道工	6 推進工			管渠工 (推進工)	基 準 高	内径の± 10% ただし 内径 > 1,000 は ± 100 内径 < 500 は ± 50	
						延 長	長	- 100
						蛇 行	行	内径の5%

測 定 基 準	測 定 箇 所	摘 要
<p>施工延長 20mにつき1箇所及びスパンの両端部を測定する。ただし、マンホール間が 20m以下の場合はスパンの中央部及び両端部を測定する。 延長は、マンホール間で測定する。蛇行は左右合計値とし延長 20mにつき、1箇所の割合で測定する。</p>		逆勾配は不可
<p>マンホール毎に図面表示箇所を測定する。</p>		
<p>施工延長 20mにつき1箇所及びスパンの両端部を測定する。ただし、マンホール間が 20m以下の場合はスパンの中央部及び両端部を測定する。</p>		逆勾配は不可
<p>施工延長 20mにつき1箇所及びスパンの両端部を測定する。ただし、マンホール間が 20m以下の場合はスパンの中央部及び両端部を測定する。&lt; 小口径管 (径 700mm 以下は)マンホール間の両端部で測定し、中央部は目視による観察とする。&gt;</p>		逆勾配は不可